



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

### O 氏とキースの場合

5

#### —日本・海外組織における働き方とマネジメントの比較—

##### 日本メーカーから外資系へ転職した O 氏

10

O 氏：年齢 39 歳、男性、法学部卒

O 氏は平成 4 年に関西の有名私立大学法学部を卒業し、ある大手自動車メーカーに総合職として入社した。大学では旅行サークルで活動するとともに法律相談部に所属し、弁護士を一時目指していたが、どちらかといえばじっくり物事に取り組むのを好む自分には性格的に向かない仕事かもしれないと思、ゼミの先輩の誘いもあって日本有数の自動車メーカーである A 自動車へ入社した。

当時はバブル景気の末期に当たり、彼の大学でも体育会やゼミの幹事などを初め、そこそこの成績優秀者であれば大企業に就職するのはそれほど困難ではなかった。そういう意味で、O 氏も何か熱烈な志望動機をもって A 自動車を選んだわけではなく、なんとなくもの作りに自分は向いているのではないか、あるいは海外に行けるかも、などと考えていた。社内ではいわゆるバブル世代と呼ばれる年代にあたる。ちなみに、A 自動車はその後のバブル不況でも業績を上げつづけ、現在でも成長しつづけている数少ないメーカーの一つである。

A 自動車では入社後数ヶ月の工場実習の後、本社国内営業の統括へ配属された。具体的には数系列ある販売店相手への販売台数を競う部署であり、ディーラーの責任者相手に寝る暇もない激務であった。異動までずっと一線にいて、深夜までおよぶ営業マンの気合いの入ったつきあい方を覚えたのもこの頃である。

ここで 3 年過ごした後、今度は製造所の経理部へ移った。ここでは各工場毎の原価計算を主に担当

---

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクールの大藪 肅専任講師が実際の事例を元に作成した。なお個人・会社の特定を防ぐため、支障のない範囲で人名・社名・出来事の一部改変を行っている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 大藪 肅 (2015 年 4 月作成)

30